

令和4年度 第1回小松島市総合教育会議 議事録

1.日 時 令和4年12月19日(月) 10時30分～12時00分

2.場 所 小松島市教育委員会会議室

3.出席者 中山市長

小野寺教育長，福田教育委員，眞井教育委員，渡部教育委員，福良教育委員

4.事務局 西照総務部長，高瀬教育次長，沖学校課長，勝野生涯学習課長，築原秘書広報課長，
河野秘書広報課課長補佐

5.概 要

(1) 開会

(2) 協議報告事項

- ①図書館のあり方について
- ②外部人材活用事業について

(3) 閉会

6.議事の経過 別紙のとおり

築原秘書広報課長

おはようございます。それではただいまから令和4年度第1回小松島市総合教育会議を開催させていただきます。開会にあたりまして、中山市長からご挨拶を申し上げます。

中山市長

皆さんおはようございます。第1回総合教育会議の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。小野寺教育長をはじめ、教育委員の皆様には、日頃より本市の教育の振興、さらには子供たちの健全育成にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

いまだに新型コロナウイルス感染症が収束する気配もなく、今年はインフルエンザとの同時流行が懸念されている状況の中で、教育現場では大変ご苦労されていることと存じます。1日も早く子供たちが元気で、制限なく教育活動ができる日がくることを願っております。このような中で、私達ができること、やらなければならないことはたくさんございますが、その1つが、本市の学校教育、生涯学習の充実を図るための環境を整備することではないかと思っております。そのためには、教育委員会と市長部局がしっかりと情報を共有して対応していかなければならないと考えております。そういった意味でも、この総合教育会議は大変重要な会議だと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本日は今年度第1回目の総合教育会議となります。昨年度は「ふるさと小松島の未来を拓く人づくり」を基本理念といたしまして、「未来を担う人を育て、未来につながる学びをつくり、未来を創造する社会をつくる」ことを目的とした『第2期教育大綱』を策定いたしました。そして『教育大綱』を着実に実行するため「第3期小松島市教育振興計画」を作成し、今後目指すべき方向や取り組むべき施策を具体的に定めていただき、今年度は実行する初年度として取組を進めていただいていると思います。今回は、本市が現在取り組んでいる事業や検討を進めている施策の中から、「図書館のあり方について」と「外部人材活用事業について」を協議事項とさせていただきます。本日はこの2つの議題につきましてご報告させていただきますとともに、委員の皆様には忌憚のないご意見、活発なご議論をお願い申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

築原秘書広報課長

ありがとうございました。それでは本日の議題に入りたいと思います。総合教育会議につきましては、設置要綱に規定されております通り、主催が市長でございますので、以降の会議の進行を市長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

中山市長

はい。ご指名でございますので、会議を進めさせていただきたいと思い

ますが、これからは着座にて進めさせていただきます。

会議次第 2、協議報告事項の 1 つ目は、図書館のあり方についてでございます。主に、図書館運営の今後のあり方について、意見交換をしてみたいと思いますので、まずは生涯学習課より、本市の図書館運営の現状と、現在取り組んでいる施策や課題について説明をお願いします。

勝野生涯学習課長

生涯学習課でございます。図書館のあり方についてご説明させていただきます。資料をご覧ください。本市の市立図書館は平成 4 年にオープンし、本年は 30 周年を迎えておりまして、今週の土曜日には 30 周年記念イベントとして、阿南市在住の絵本作家羽尻利門さんを図書館に招き、トークショーや原画展を開くこととしております。

まず「図書館の運営について」ですが、図書館法第 3 条に定められております図書館奉仕のため、市民の希望に沿い、さらに学校教育を援助し、家庭教育の向上に資することとなるように郷土資料や図書などの資料を収集すること。また、図書館職員は図書館資料について十分な知識を持ち、その利用のための相談に応ずるようにすることなどについて努め、表にあるような各種イベントを催しております。次のページをお開きください。現在取り組んでいる施策といたしまして、来年 1 月より小松島市民が徳島市・北島町・藍住町の公立図書館を利用できるよう進めております。また 2 つ目として、民間業者が持つノウハウを活用し、図書館の管理・運営を委託することについて、指定管理者制度の導入について、調査・研究を進めています。全国及び徳島県内の導入状況をお示ししておりますが、それぞれ約 20%、28%の導入率となっております。平成 15 年に地方自治法が改正され、この制度が誕生し、各自治体が持つ公の施設について、民間業者へ委託する、いわゆる「公設民営」が取り入れられてきております。本市でもいくつかの施設について導入は進んでいますが、図書館への導入について現在研究を進めております。この指定管理者制度の導入により、サービスの向上や経費・人件費の縮減が期待されるところでございますが、本市図書館の現況といたしましては、正規職員 2 名の他には、館長や司書 6 名、これらは全員会計年度任用職員でありますので、見積りによる人件費だけ比較すると、実際に図書館運営に関わる会計年度任用職員に係る人件費は年間約 1,800 万円ですが、この業務を外部委託いたしますと、費用は約 2,900 万円、開館時間を 21 時まで延長した場合には約 3,500 万円と、どうしても割高にはなってしまいますが、この後ご説明しますが、図書館の 3 階、以前、生涯学習課があったスペース、それから視聴覚室を貸会議室や自習スペースを設置するといった案もありますので、例えば開館時間を 21 時までとした場合にも対応できるのではないかと考えております。他にも図書館流通センターという会社は全国一の図書館の指定管理

の請負実績もあり、県内でも徳島市・阿波市・美馬市・吉野川市の図書館が委託しておりまして、十分なノウハウを持ち合わせているものと思われれますことより、サービス向上に期待できるものと考えております。また、芥川賞作家などを招き講演を開催するといったそういうことも可能と聞いております。さらに、図書館にカフェスペースを併設するなどにぎわいづくりの観点からも1つの構想として検討しておりますが、こちらにも対応してもらうことも可能かを確認しております。

一方で、全国的に図書館における指定管理者の導入が約20%と低い割合でありますのは、図書館法では公立図書館は入館料や図書の貸し出しについては無償で行うことと定められておりまして、また先ほどノウハウを生かせると申しましたが、指定管理者を導入した場合には3年から5年の一定期間ごとに業者が代わる可能性があるといったことによりまして、窓口業務においての小松島市に係る見識などそれまでの経験、図書館司書が入れ替わることにより、また1から積み重ねなければならないこととなります。地域に根ざした様々な活動を展開するには、図書館の第一線での住民をはじめ関係機関との密接な連携を図ることが重要であることより、短期間の契約ではこのような専門的職員を配置することは極めて困難と考えられてきて、日本図書館協会は「図書館への指定管理者制度の導入はなじまないと考えます。」といった意見も一方ではございます。一旦指定管理者制度を導入した後でも、その自治体の方針と異なったり、費用対効果が思うようにいかなかったり、また指定管理者にカフェ経営を委託したが経営が成り立たず、カフェを閉鎖したなど、次の更新を行わず直営に戻す図書館がいくつかあるとも聞いております。図書館への指定管理者制度の導入につきましては、メリットだけを見るのではなく、こうした様々な課題・問題を解消できる方策について調査・研究を重ね、検討してまいりたいと考えております。

次に、「現在および将来において検討している計画・課題」ですが、1つ目は本港地区活性化基本計画です。若者や子育て世代が住みやすいまちづくり、他のまちから小松島市に来て住んでもらい、定住していただけるように、またこの地域を中心に小松島市での交流人口の増大に繋げることのできるよう、にぎわい創出のための計画を現在策定しております。まだ具体的な内容は決定しておりませんが、みなと交流センターkocoloには、子育て世代のための施設を、生涯学習センター、図書館の3階には自習スペースや貸会議室を設置することなどを検討しております。この本港地区活性化計画にあわせまして、2つ目の図書館を含めた都市公園におけるステーションパーク改修計画ですが、国への補助申請を進めておりまして、これが採択されますと、公園の整備の他、公園内に図書館に併設した施設または設備、これは例えば太陽の光のもと読書ができるスペースであったり、

カフェスペースだったり、また、ガラス張りの建物かオープンテラスなのかはこれからの検討となりますが、これを図書館に併設し、整備を進めてまいります。本港地区活性化計画のワークショップでの意見や、その他の図書館でのご意見の中では、「図書館は暗い」との意見がありまして、これは照明の明るさではなく、雰囲気などを指しているのであれば改善の余地はあると思いますが、照明の明るさや、また太陽の日のもとでの読書ということでありましたら、当然ながらあまり明るくしすぎて眩しい・目に悪い、また、太陽光は図書にとって良い影響ではなく、本を傷めることとなりますことより、眩しすぎず、暗すぎず適切な明るさが求められることとなります。このため、現図書館でも直接太陽光を取り入れることのないように、ガラスに専用のフィルムを施しております。

最後に図書購入費予算の確保・充実であります。本市の図書購入費につきましては、市の財政状況が厳しいこともあり、ここ数年は200から250万円の予算となっております。ちなみに県内他市7市の平均は約1,300万円です。7市の中で一番低い美馬市でも475万円と本市の倍近い金額となっております。また、このたび開始の広域利用の市町では、徳島市の他の北島町で500万円、藍住町で590万円でございます。市民からは、市立図書館に行っても古い本しかなく借りる本がないという意見もあります。確かに、10年前のハウツー本を置いていても誰も利用しないと思います。現在ではデジタル化が進み、スマホやタブレットで読書することもできますが、やはり実際に本にふれあう・活字にふれあうとこういう機会を幼少期より取り入れ、学力や感性を伸ばすための情操教育は必要だと思っております。生涯学習課・図書館としても未来の小松島市を担う人材・若者を育てていくためにも、今以上の、2倍以上の図書の充実は不可欠であると思っておりますので、今後も財政当局に要望を行ってまいります。このとおり多くの課題があり、開館30周年市立図書館は、大きな過渡期であると感じております。以上でございます。

中山市長

ありがとうございます。ただいま生涯学習課から説明をいただきました。市立図書館は、本年が開館30年となる記念の年でございます。様々な課題がありますが、平成4年に開館して以降、30年の長きにわたり、市民の皆様が親しまれる図書館として多くの方にご利用いただいております。ただ、時代の変化に伴って、高度化・多様化している市民ニーズにも的確に対応しなければならないと考えているところであります。

課長にちょっとお聞きしたいんですけども。最近のですね、図書館の利用人数と、もし分かれば、構成の年代が分かればちょっと付け加えていただければと思います。

勝野生涯学習課長

はい。それでは追加資料になりますけれども、先ほど申しました県内8市それから北島町・藍住町の一覧にした人口それから登録者数、利用者数、蔵書数、令和3年度の個人貸出数、それから令和4年度の図書購入予算、それぞれ人口当たりの数値の表です。申し訳ございませんが、年齢別というのは持ち合わせておりません。

中山市長

1日あたり大体どのくらい来ているんですか。週末と平日と。例えば平日で何人くらい、週末で何人くらいっていうのを。

勝野生涯学習課長

すみません、全体の平均利用者数としましては、1年間で2万874人でございますので、これを月曜日が休館なので2万874割る300としましたら、69.5。約70人ぐらいになります。

中山市長

はい。ありがとうございます。ただいまの追加の説明も踏まえてですね、委員の皆様から、今の現状と課題に対する認識、また図書館に対する要望等がありましたらお聞きしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。ひとりずつにお願いしたいと思っております。

福良委員

恥ずかしい話、本当に現職、教員のときは図書館の利用もさせてもらって子どもたちが使ったりしよって。個人的に言いますと、あんまり利用しなかったっていうのがなぜかって考えるとやっぱり、車で行ってぱっと停めて、それで本だけっていうふうな、ちょっと若干不便っていうふうな認識があります。そういうふうな個人的に使うというふうなのが、ちょっと環境的に使いにくいのかなって。それともう一つ、蔵書数が少ないっていうふうなものもあまして、どうしても買ったりとかいうふうなところがあります。でも蔵書数が少ないっていうふうなのですが、いろいろ学校教育に携わってたときは市立図書館の方から学校の方に働きかけていただいて、今現在も電話1本で、それこそ学校の方に図書館の本をもうさっさと持ってきてくれるっていいですかね。学校も本当に図書費がもう非常に苦しいもので、もう非常にありがたいサービスになっております。やっぱり先ほど課長さんもおっしゃったんですけども、学校という場所は子供が本を開いてっていう時間が比較的朝の時間、休憩時間とか取りやすい部分もあるので、教育に関わるものからしたら、すごく小松島市の図書館は頑張ってくれているなというような気はしております。そこらあたり以外はなんかもうひとつ利用しにくいかなと。子育てをしている方はいろいろ絵本の読み聞かせて、以前勤めていた学校の保護者の方が、図書館で読み聞かせをしていただいて。そういうふうな就学前あたりの保護者に対する読み聞かせの機会なんかも非常にたくさんしてくれていて、本当に少ない

蔵書、それから予算の中で頑張って図書館を活用していただいているなっというふうな思いはあります。ちょっと答えになったかどうかわかりませんが、そういうふうなことで。

中山市長

はい。ありがとうございます。学校関係がですね、要望に応じて、学校から要望があれば本をお届けするというようなサービスを行っているとは非常に好評だとは聞いています。例えば夏休み、今の本の課題ってまだ学校関係、作文とかいろいろあったので、その課題本というのは図書館で準備できてますか。

勝野生涯学習課長

申し訳ございません。十分認識しておりませんが、一定程度はあると思うんですけども、全てなのかどうかというのは把握しておりません。

中山市長

課題の本っていうのは、学校から今回の夏休みの課題はこの本ですよって出しますよね、生徒に。その時に課題本はどうするんですか。各家庭で買うとかいうことになるんでしょうか。

福良委員

これが今年の課題図書ですよとかいうふうなのは、確かに夏休み前にチラシをいただいたのを配ったりはしていますけれども、これも何冊かですね。

小野寺教育長

これ今市立図書館の話なんですけれども、学校も当然図書館がございまして、学校図書という形で。それで先ほど市長がおっしゃっているような話に関しては、学校図書の方で購入の方を進めていくような流れがあります。だから市立図書館の方でそれを買っているかどうか僕も具体的な資料はないんですけども、子供の方には学校図書の方でケアをしているというふうな形になっております。

中山市長

はい、ありがとうございます。少し前の新聞でですね、全国の地方自治体1741市町村があるんですけども。その中で確か776の市町村で本屋さんがなくなっているという記事を読みました。ですから、なかなかただでさえ本に触れる機会っていうのがなくなっている中で、小松島市は幸いにしてまだおそらく二つ、三つあるので、本に触れる機会っていうのはあるんですけども。主流が電子書籍になってきてるんじゃないかなと思いますけれども、電子書籍に対して小松島市図書館っていうのは今何か取り組んでいることってあるんでしょうか。

勝野生涯学習課長

はい。指定管理者制度導入に合わせて、そういった研究も進めておるん

ですけれども。予算までは、業者が決まるとる他の市町村ではコロナ交付金を使って、それを充実したということも聞いておりますが、本市では今のところ予算の関係もありますし、それを電子図書で徳島県立図書館とかもあるんですけど、それを導入した場合に図書館に来ていただく人数が減る。減るというのではないんですけども、実際やっぱり実際の本に触れていただく面がなかなかなのでこれどっちがいいのかなと思ってちょっと考えておるところでございます。

中山市長

確かに来てもらうというのとなかなか相反するところがあるのかなと思います。ただやはり活字に触れてもらうということがまず大前提になっているのかなと思うんです。今の若い人たちは新聞さえとってない。もうほとんどスマホでニュースということで、信頼性がどうかなっていうところもあるんですけども。そこは社会現象になってて、加えて犯罪と属するようなことにも繋がりがねないから、やはりじっくりと考える。目で見て読んで頭で理解して考えるっていうのは、やはり活字からではないかなと思うんです。ですから、もっともっとそういう活字離れをなくしていかないと、改善していかないといけないのかな、そういった意味で図書館の役割は非常に大きいと思うんですが。すいません渡部先生、ちょっと今の図書館について、もし利用者を増やすためにはこうしたらどうかっていう、もし案がございましたら、教えていただきたいと思います。

渡部委員

今、市長さんがおっしゃったようにやっぱり活字を読んで理解するっていうところ。いわゆるネットとかそういうもので検索してっていうようなところでは、やっぱり脳の働くところが全然違って、やっぱり前頭葉が鍛えられますので思慮深い子になったり、すぐにキレるような子はやっぱり、活字の全体的な強みだと思います。だから私やっぱり小さいときに読書の習慣というか、ちょっとでも小さい子供のときから、絵本とか、いろんな本をその子供の程度に合わせたものを、自分が読みたいと思う本は選べるようなところの環境づくりっていうのはすごく大事で、だからそこへ親子で足を運ぼうというちょっとワクワク感のある図書館とかがあれば大変いいと思います。だから、ずっと子供たちを見てやっぱりご家族が読書好きであるところの子供もやっぱり読書します。やっぱり全然そういう環境にない子は、なかなか夏休みの宿題でも他のものみんなできたけど、読書感想文だけが最後まで残ったっていうような感じで、なかなか本が読めない子がたくさんいますので、やっぱりそういうところを小さいときから小松島の子は本好きな人のところで育てていけたら、例えば若い方がこちらに住むにしても近くにちょっとワクワク感のある図書館があるとかいうのはすごく強みだと思いますので、いろんな業務委託とかいろんな方法

あるようですが、できればそういう小さい子供、もちろんシルバー世代の方も憩えるようなところとか、色んな意味でやっぱりそのままなくて何かの形で取り込めて、より充実したようなところがあれば大変良いと思います。それとネットとかで調べたら、ピンポイントでしか目に触れませんけど、図書館とかはデパートと一緒に、行ってみるとこんなものもそんなものもあるという、いろんなものが視野に入りますので、それもとて小さい子とかもちろん大人もですけど、「あ、こんなものもあるんだ。」「これも読んでみようか。」というそういうところは読書っていうか図書館の強みだと思いますので、いろいろとやっぱり検討されてやっていっていただければいいと思います。

中山市長

ありがとうございます。いろいろお聞きしたいんですけど、何時まで。

築原秘書広報課長

12時まで。

中山市長

12時まで。時間を気にして。その後にもまた協議できると思いますから。眞井委員どうでしょう。

眞井委員

渡部先生もおっしゃいよったように、活字離れっていうんをよく聞くんですけど。親がやはり本を読まない、子供もたぶんあんまり読まないと思うんです。図書館で子育て世代、子供さんと親と一緒に楽しめるようなサービスっていうんを考えていくべきではないかなと思いました。たとえば、別に子供さんと親と一緒に楽しむっていうんでなく、一緒に行って子供は子供で読みたい本を読んで、今度はお母さんお父さんが子育て世代のお父さんお母さん同士が話したりとか、本は読まなくてもいいんですけども、子育ての悩みであったりとかを同じ境遇の人と話し合えるようなスペースを貸し出せるような、いろいろお母さん同士でお茶会しながら喋ったりっていうんをちょっと考えてみたら、この子育て世代の支援っていうのにも合致してくると思うんで、そういうサービスを試してみてもいいかなと思います。以上です。

中山市長

はい、ありがとうございます。非常に貴重なご意見ありがとうございました。はい。

福田委員

失礼いたします。先ほどから話題になってます本離れ、活字離れのところについては、私も学校現場の時代もございましたし、子供たちに本について多く語ったりした機会もございました。今の小松島市の現状、図書館の現状を言いますけど予算の資料を出してい

ただきましたけれども、県内の各市町に比べまして予算的にもない状態で、しかも職員も正規職員じゃなくて会計年度任用職員で運営されているという、そんなところの事情もございます。子供たちが本離れがどんどん進む、そういった中でコロナの影響もあるかと思えますけれども、この2~3年の間には交流も少なくなってきた、子供たちがいよいよ家に閉じこもりがち傾向、その中で図書館の存在が大きいかと思うんで、先ほど生涯学習課さんの説明の中にもございました例えば指定管理者の導入であるとかその他の計画もございますけれども、民間のノウハウを活用して何とかこの場を乗り越えていくっていう方面には私も大賛成でございます。ただそうした中で今の時代の流れとしても、デジタル化も進んでおります。ネット社会でございます。図書館に足を運んでっていう、かなり動きとしてはもうまずいという時代なので、その時代背景も考えながらなんですけれども、何とか今の活性化、また小松島の未来づくりにも発展させていけることをぜひ期待をしているところであります。本屋さんでなく図書館に行く。図書館の職員の方が本当にこれまでも学校管理の子供たちがボランティアで活動されていることも聞き及んでおります。もうこの機会にさらに活性化されることを私も期待したいなというふうに思っております。以上です。

中山市長

はい。ありがとうございます。教育長は。

小野寺教育長

現在の図書館なんですけどね、先ほどの話にも出ておりましたけれども、貸し出し業務とかないしは学校への配本事業や図書館見学なんかね、本当に会計年度の図書館司書さんは本当によくやってくれていると私は思っております。ただやっぱりいろいろなデータからも、利用者が少ない、ないしはその理由を考えていったときにですね。新しい本が少ない。やっぱり魅力に欠ける部分があるのではないのかなど。この部分に関してはやはり改善していく余地はまだあるのではないのかなと考えております。新しい本をそろえて流行を作っていくっていうふうな図書館業務の中の内容と図書館を地域の中で見ていったときの、本に出会う機会をいかに多くしていくかっていうその2つの側面から考えていけるんじゃないか。本に出会う機会っていうのはさっき言った、学校への配本事業とか、ないしは図書館で今やっている見学に来てもらうとかそういう形で1つはいける。ただもっともっとホームページを充実してアピールしていったり、もっと先を読めばやっぱり図書館が市の中における交流的なスペースになったりとか、市民の動線の中に図書館っていうのが位置付けられている。そういうふうなところまで踏み込んでいけば、またさらに違った形が見えてくるのかなっていうふうに考えました。ただ図書館の性格上ですね、不易の部分っていうんですかね、要は資料を、図書を充実させて人気の本でなくても、市

民にとって必要性がある本を調査・研究のために保存していくっていうふうな一番基本的な部分。この部分はやはり大切にしながら、さらにプラスアルファの部分、さっき福田委員さんもおっしゃってましたけど、そういうふうな部分を考えていく必要があるのかなと考えております。

中山市長

ありがとうございます。それぞれ委員からですね、貴重なご意見いただきました。ただ会計年度だから、正規職員だからっていうふうなのはあまり関係ないような気がするんです。やはりやりがいを持って、その任務に当たっていただいているか。例えば正規職員が行ったら、比較的雰囲気が変わるか、環境が変わる、図書館のイメージが変わるか。果たして、そうじゃないと思うんですね。だから会計年度職員であろうが、やはりやる気を持ってこの図書館をもっともっと活用していただけるような図書館にしようというやる気があれば変わっていけるんじゃないかなと思っておりますが、なかなかそういうふうに変ってるのを期待しているわけです。この2年半見てたんですけどもあまり変わっていないと。ただいろんなイベントをやっていただいているんですけども、ただイベントだけになっというふうな気がするんですね。やはり眞井委員、教育長がおっしゃったように交流の場、継続的に交流の場になっているのかというちょっと疑問があります。ですから、今後後ほど皆さんにご意見いただいたような図書館を目指してですね、実は今、子育て世代応援プロジェクトっていうのが大きな柱がそれに加えて、本港地区の活性化ということですね、今、本市、2本の柱を立ててですね、集中的に財源投資と計画を今進めているところでございまして、例えば本港地区というのは、kocoloから図書館、SL広場までの間をですね、サウンドハウスホールも含めて、一つの面で捉えてですね、今までは図書館、サウンドハウスホール、kocolo、もう一つのplace、場所、点だったんですね。それを一体的に進めていこうと。その一体をずっと流れていくような取り組みをしようというようなことで、今計画をしているところでございます。例えば、今、母子健康包括支援センターおひさまっていうのが保健センターにあります。そこに妊娠された方から出産後のお母さんが利用されているんです。利用率も、最近上がってきております。そこで相談に来た人が、図書館に来て、絵本を一緒に読むとかですね、そういうふうな繋がりをもたしていきたいなというふうなことで、今計画を作っているところでございます。もちろん、例えば中之島図書館とかですね。いろんなカフェを併用した図書館とか、今度また一回見に行きたいなと思ってるんですけど、東京には公園と併設した図書館ですごく開放感がある図書館、デッキがありましてですね、そういうのもあるそうでございます。そういうような場所的にはすごくいい場所だと思うんですよ。たぬき広場があってそこに併設されておりますので。そこ

との一体化は今、残念ながら、ないわけでございますので、そこを一緒に繋げていければもっともっと魅力のある場所になるのかなと思っております。加えまして、今3階に生涯学習課がこの場所に移動しておりますので、その3階のスペースも今空いてるところでございます。1階と3階をうまく連携させて、そこもちろん費用を投じてですね、改修をして、何かをやりたいなというふうなことで計画を今作ってるところでございますので。まとまったらまた委員の皆様にはちゃんとした計画をお見せできるとは思いますけども、しっかりと各場所を繋いでいきたい。で、やはり小松島の大きな魅力は港。港町からにぎわいがあるわけでございますので、例えばしおかぜ公園にもたくさん来てます。ただ、今日みたいに寒い日はなかなか外で遊べない。雨が降った日とかですね、天気が悪い時はなかなか外で遊べないので、そういう人たちが行くところがないなっていうふうにならないようにですね、kocoloにいったらどうか、図書館に来てもらうとかというふうな、動線作っていききたいなと思っておりますので、また今後いろいろ計画策定の中でですね、皆様お示ししたときに、もっとこうしたらいいんじゃないかというような忌憚のないご意見を賜ればと思っております。また、行政改革2022も同時に進行をしているところでございまして、その中で各所管の場所のですね、指定管理ということについても触れられております。その中にももちろん図書館の指定管理を進めたらどうかというふうな意見が出ておまして、先ほど生涯学習課の課長の方からもお話があったようにですね。今検討を進めているところでございますが、果たしてそれがいろんなメリットデメリットがあるということもお話を説明させていただきましたけれども。それも各委員の皆様が、例えば9時まで夜遅くまで開館できるというメリットがある一方で、今1800万が3600万、3500万になるというふうな人件費、財政負担になるというふうなデメリットがあるというふうなことも説明させていただきましたけれども、図書館の指定管理制度についてはどのようなお考えをお持ちかを、ちょっとお聞きしたいと思っております。先ほどの順番でいってよろしいでしょうか。

福良委員

まず指定管理っていうとサービス向上できるかなとかいうイメージはあるんですけども。指定管理者というのは儲けとか、どうしても営利を優先しないのかなとかいうふうな気はします。その中で少なくとも今、例えば学校に対しての配布の事業とか、今現在できている図書館事業は維持しつつ、プラス何かアイデアをいろいろ出していただいて、市民の交流の場、子育て世代の交流の場を設けていただくとか、そういうふうなこともできるのであれば、指定管理者にしてもいいのかなと。逆に言うと、今の現状ではできないのかなというふうな気もするんです。やっぱり、図書館って

教育とすごく密接に学校教育・生涯教育に関連しているようなどういふふうな小松島を担うこどもを、人を育てるかっていふふうなことに繋がっていくと思うので、予算をしっかりと立てて、交流の場それから学校教育にも貢献できるようなそういうものになれば、どちらでも今の現状とこの予算をつけて、それで会計年度職員で進めていってもできないのかなというふうな気持ちもありますし、できないとなったら指定管理者でどういふふうなことをしていただけるのかなというふうなのはちょっと想像しにくいところがあります。だから今の学校との連携とか配布事業とかは、ぜひ続けていってほしいなというふうな思いがあります。

中山市長

はい。ありがとうございます。

渡部委員

もう既に導入されている市町村もあるようなので、そこは導入後はどんな状況であったかとか、やっぱりいろいろとそのあたりを上手いこと取り入れて、何でもですね、やってみないとわからないことっていうのがありますので、やる前から難しいと決めてしまってやらないよりは、前向きにっていうところも大事だと思いますので、そのためには先に導入されているところの状況とかを伺ったり、全国で導入されているところの状況などもちょっといろいろ勉強されてやっていただけるのは、大変、お金はもちろんかかることだと思いますけど、ちょっと何点か私なんかでもどうなるのかなってちょっとワクワク感みたいなものはありますので、そういうところで大変良い案とは思っています。

中山市長

はい。ありがとうございます。生涯学習課にお聞きしたいんですけど、他市町の状況っていうのを確認っていうのは今どうなってます。

勝野生涯学習課長

県内ばかりなんですけども、指定管理を導入している徳島市とか、文章というかアンケートみたいな感じで調査を今行っております。ぼちぼち回答返ってきてんですけど、まだまとめきれてないのでちょっと現状それぞれの状況は今確認するところでございます。

中山市長

はい。お聞きの通りですね、お役所仕事の答えでございます。なかなかこれ行革の会議を開いたのが、だいぶ時間が経ってるわけですよ。その時にまず第1に図書館指定管理という話をされました。今本港地区活性化の中で、産業振興部の商工観光課も一緒になってやっていると、一緒になってっていうか、そこが主体になってやってる感があるんですけど、それは図書館は元々生涯学習課の所管なので、それをですね、商工観光課がやってくれるだろうとかいふふうな思いがあるような気がするんですよ。す

いません、これ身内の恥をさらすようですけど、皆さんに聞いていただきたいと思って今あえて言っております。その辺のところは今県内の指定管理の状況じゃなく、もっともっと他県とか杉並図書館とかですね、さっき言いました中之島図書館とかは多くの人を集めているわけですよ。で、そこら辺にもう例えば高知にも書店が経営している図書館、指定管理をやっている図書館もあるというふうなことを聞いております。これも全て商工観光課からの情報なんですね。既にその職員は視察に行ってるわけですよ。また年が明けて静岡にこんなふうな、浜松の方にもあるというふうなことも言っていて、今、視察に行く準備をしているわけです。一方で生涯学習課、教育長。生涯学習課は県内のアンケート調査しかしてない。というこの温度差っていうのはいかがでしょう。

小野寺教育長

よろしいですか。社会教育法、図書館法、法律がここ5年の間に変わりました。その変わってきた内容というのは、今までの教育施設の所管を市長部局に移行できるという形でございます。だから武雄市にしても高梁市にしても全部移管、移行してます。所管。その移管をしている理由っていうのは何だろうかっていうと、やっぱり基本的には市長部局とそれと教育委員会の物事の決定していく流れが違う。例えば教育委員会は定例教育委員会等で決定する。そうなってくるとやっぱりスピード感も下がるし。これともう一つは、図書館の目的をどう持っていかってというふうな部分において、やはり教育委員会っていうのはあくまでも市民の方々の学習、教育、教養を高めるっていうふうな部分に持っていく所管。だけど、おそらく賑わいとかは産業振興というふうな形になると、それは市長部局で持っていた方がうまくいきます。そういうふうな背景があって、図書館に関しては2019年6月に法改正になってます。2019年度にどうしてこのような法改正が出たのかなって言うたら、今のような市長がおっしゃったような大きな全国的な流れの中で、それがやっぱりやりやすいだろうというふうな形で変わってきている。僕自身はこっだけ社会が変わってきているんだから、やっぱり図書館は変わるべきである。でも、図書館を変えるときにはさっき言った動線も含めて、交流の場も含めて、福祉も含めて全てがリンクしているような形。鷹も鷲もよく似た形ですって言うんですけども。そういった形を目指しているときに、スピード感と方向性が必要ですっていうことです。どうしても教育委員会が求めているっていうのはさっき言った、学校教育に関連した部分であるとか、ないしは本来市民の方がいらないと。いらないうっていうのはどういうことかっていうと、何て言うんですかね。流行りの本ではなくても、これは市民の方には必要なものであるっていうふうな本も買い揃えていかななくてはならない。実は真逆の話でね。だからそういうふうなものをやっぱり取り入れていかな

やいけないっていうふうなスタンスがあることなんです、実は。さっきの話に戻りますけれども、公立の図書館の基本的な機能っていうのを維持しながら、その上に上乘せのサービスとしてやっぱり展開をしていくべきじゃないのかなど。そうしないとおそらく指定管理に出してもですね、指定管理者のメリットがあんまりない。うん。ただ、本の貸し出しと入館だけは無料って法律で決められている以上は、そこにお金を乗せるわけにはいけないんで、やっぱりその上乘せのサービスっていうのを考えていかななくてはならない。そのときにやっぱりその法の改正っていうふうなものもやっぱりそういう時代の流れなんだなっていうことは、私自身も考えております。ただ教育委員会としてもですね、その部分でこの会社だからどうこうというのではなくて、やっぱりさっきも言ったように社会が変わっている以上は、市長がおっしゃるように、1つの面として捉えて、協力はしていかないといけないというふうに考えております。だから、この話っていうのはどうしてもこの単純に部屋を貸すだけっていうふうな話とちがって、いろいろな課題があります。例えば政治的中立性の問題。ないしは継続性の問題。3年や5年で契約を破棄されてしまうけど、図書館、普通に対価を課している場合だったら3年5年の契約でもいけるんですけど、図書館っていう教育施設である以上は、どうしても10年、20年という長いスパンで考えていかななくてはならない。でも問題点が多々ある。だからその辺のあたりをやはり委員会としても、結局もっともっと全国的な流れを十分に勉強して、そしてさっきから話に出ている、やはりメリットとデメリットと、どうしても教育委員会としては頑張らなくてはならないものに関しては、どこが所管しようがその部分に関してはやはり熱い思いを持ってお話をしている。そういう形で指定管理っていうふうな形を見据えていったらいいんじゃないか。何度も言いますけど、社会が変わってきて、図書館法ができた昭和の時代の形態をそのままにすることっていうのは私は違うと思う。形を変える。だから、そのための、先ほど話しているような情報をしっかり集めてもらう。それも市長がよくおっしゃるんだけれども、やらない方やなしに、やる方向で問題点を出してくださいというふうな形で、私もあの委員会として捉えていきたいと考えております。すごく長い話ですみません。

中山市長

はい。ありがとうございます。渡部先生ね、進捗感をっていう話で、やはりとりあえずやってみたらいいと思うんです。教育長の立場的にですね、やっぱりよその検索するっていうのも、もちろんそれは考えていかなければいけない。ただ指定管理をする上でですね、しっかりとその継続性を軸にですね、考える必要もあると思います。今後またいろいろご意見をいただきたいと思います。すいません、眞井委員さんお願いします。

眞井委員

ほとんど思っとうことを先に言われた感じなんですけど。やっぱりもう民間が良いと言ったらおかしいんですけど、郵政民営化のときもやっぱりメリットデメリットはあったと思うんです。やるにあたってやっぱりデメリットがメリットを上回ったら、ここはやる価値がないと思うんです。その辺をしっかりと検討していただいて、他の上手いこといってる市町村とかの視察も、先ほど市長がね、おっしゃいよったように、見てきていただいて、それで他市町村がうまいこといってるから、それをまねしたら小松島には合うかというところも必ずしもそうではないと思うんです。やっぱ立地条件であったりとか、周辺の環境もやっぱり皆それぞれ全然違うと思うので、その辺をしっかりと検討していただいて、やる流れ、先程教育長がおっしゃったようにやるならやる方向でどうしていったら上手くできるかっていうのは検討していただいて、進めていただきたいと思います。以上です。

中山市長

はい。ありがとうございます。福田委員お願いします。

福田委員

はい。先程少し先走って指定管理、民間の方のお話もしてしまいました。失礼いたしました。指定管理につきましては、先ほども言いましたけれど、基本的には賛成なんですけれども、ただ民間を、それを取り入れるということについては賛成なんですけど、ただ利益の方に走りかねない。大変気をつけておかないと本来の図書館で伝統的に行われた、例えば読み聞かせであるとか、学校への配本の活動であるとか、そういったベースになっている活動そのものが、先ほども委員さんがおっしゃってございましたけれども、そこをうっかりないがしろになってしまって、その見た目の部分だけで指定管理というようなことで走ってしまうことにも気をつけないといけないのかなと。ただもう既に構想の中に、指定管理者以外のところにも本港地区であるとか、そのステーションパーク改修、既に計画をされている中で私もそれはいいことかなと思うんですが、周辺地域で総合的に見て一つだけでなく、総合的に計画を広い視野で発展させて考えていく。取り組んでいく。っていうそういうことが姿勢としては大事なことかなと。しかもこれが活性化につながり、もっともっと嬉しいのかなというふう考えてます。以上です。

中山市長

はい、ありがとうございます。教育長先ほどのので。

小野寺教育長

はい。もう結構です。

中山市長

先ほどのにですね2点、にぎわいづくりの課題としてどうするのかとい

うことと、指定管理のあり方についての各委員の貴重な意見を賜りました。もちろん、指定管理をする上でですね、継続性のこととか営利目的になってはいけない、今の図書館事業を継続しつつ、もちろん市民サービスの向上をするために指定管理というふうな話も上がってきているのではないかな。単なる財政的なことだけじゃなくてですね、バックボーンにあるのは、市民の皆様に住み続けていただくような小松島にするためにはあっていうのがあるわけですよ。その中でやはり行き場所。眞井委員がおっしゃったようにですね、子育てするときに行ける場所がある。若い人たちが楽しめる場所がある。そういう場所を作っていかなければいけないと思っております。そういう意味では図書館もそういう場所になっていかなきゃいけないと思っておりますので、本日いろいろな意見をいただきました。概ね指定管理を含めて、図書館のあり方をもっともっと変えていくべきだというふうな意見だったかと理解をしてよろしいでしょうか。ありがとうございます。今後ですね、しっかりと教育委員会と連携をして協議をする上でですね、今いただいた意見も考慮しながらですね、また図書館のあり方について今後検討してまいりたいと思っておりますので、また引き続き皆様のご協力をいただければと思っております。

それでは次の議題に移らせていただきます。協議報告事項の2つ目、外部人材活用事業についてでございます。皆さんもうテレビのニュースや新聞等でご存知だと思いますが、先日、各小学校にパントマイムのパフォーマーの方がだったり、ギター弾き語りの本市出身の堀尾さんを講師に招へいしてですね、堀尾さんの話を伺えばですね、生徒の目がきらきらと輝いていたというふうなお話も伺いました。本当にこの事業っていうのは大成功だったのではないかなと思っておりますが。そこで、現時点での活動実績とその効果・課題について学校課の説明をお願いしたいと思います。

沖学校課長

学校課でございます。資料2になりますがお手元にありますか。その外部人材活用事業なんですけど、この事業は本年度の新規事業として始めております。資料にありますように、この現状としては、まず小松島市外部人材活用事業実施要綱を策定いたしまして、次に学校と外部人材との連絡調整を担当するスクールコーディネーターを1名配置をし、事業を進めております。今年度の派遣講師については別紙があるんですが、こちらをご覧ください。お名前は控えさせてもらってんですけど、学習内容として32の内容を実施しております。各校で派遣した講師の延べ人数としては、72名の方に学校の方へ出向いてもらっております。本事業の目的としては、授業の導入やまとめ、授業支援など教育課程に沿った内容として各学校で活用することを目的としております。例えば例として、1月の先頭であります読み聞かせについては、読むことと聞くことという力を伸ばす国語科

の扱いであったりします。中ほどにあります。ポンス菓子作りとか、冬を楽しもうという部分については、小学生低学年の生活科の授業で地元の方に来ていただいて、実演や話をさせていただいたりしております。またギター演奏、先程も市長さんからご紹介していただきましたが、小松島市出身の堀尾和孝さん。それから、パントマイムというのがありますが、この方は阿南市出身の2人組の芸人さんでゼロコさんにご講演いただいております。興味あること、頑張っって長く続けることの大切さを子供たちに楽しい時間とともにわかりやすく伝えていただいております。そういった活動の効果として、先ほどの資料に戻っていただきますが、効果としてはスクールコーディネーター1名配置しておりますが、各校を回って学校の意向や希望を直接聞くことで学習活動に生かした外部人材、講師の派遣に繋がっています。知識・経験が豊富で高い専門性のある地域の人材の方を学校へ派遣することによって、児童生徒の実績や技能の向上、豊かな人間性の育成等を図って教育的効果が高まった後も考えております。さらにですが、身近な人材の発掘により、個々の学校での取り組みであるものを他校へ派遣していくことによって、地域の方が学校とのつながりを持ち、地域の活性化が図られていると考えております。今後の計画としましては、今年度講師として派遣した方々を外部人材リストを作成して、人材バンクとして活用していきたいと思っております。それからこうした講師の派遣を学校の学習活動に負担なく継続的に行ってまいりたいとも考えております。次年度以降、各校の希望としては講師に住友紀人さんをはじめまして、資料にあります方の希望が出されております。学習内容の希望としては、プログラミング教育や防災教育などが挙げられておりまして、このような内容の学校のニーズに応じた講師、こういったところの学校希望になる講師の方をこういう人材を確保することが今後の課題であるかと思っております。説明は以上です。

中山市長

はい。ありがとうございます。ただいま学校課長より、ご説明いただきましたが、この外部人材派遣事業というのは昨年委員の皆様にご協議とご協力いただいた学校再編に繋がるものだと思っております。やはり小松島市の特色教育の特色の一つに繋がっていくのではないかなと思っておりますし、伝統文化の継承や郷土愛の醸成、また、専門知識を有する方からの指導というのは、回り道をしないで直接ゴールにたどり着けるような最短で技能を習得できるようになるのではないかなと思っておりますので、この事業というのは非常に有意義なものであると思っておりますが、各委員の皆様の感想なり、ご意見を賜りたいと思います。お願いします。

福良委員

今年度、今までも文科省とか教育委員会の方から、派遣事業ありますよ

っていうことでやってた事業もあるようには思うんですけども、今年度この要綱を作ってスクールコーディネーターの配置をしたっていうふうなことで、それから何より大きいのは予算もしっかりつけていただいて進めていっていただくっていうふうなのは、本当にもう現場の学校は助かってるんじゃないかなというふうな気がしますので、人材をしっかり集めて、こういうふうな学校現場をフォローしていけたらなというふうな気はします。ぜひ来年度も大きくしていただけたら、子供たちの専門家に直接お話を聞いたり、演奏を聞いたりっていうのは、もう心のおやつになっていると思いますのでよろしくお願いします。はい、以上です。

中山市長

渡部委員。

渡部委員

この間早速子供たちがパントマイムのまねをして、こんなんよとか言うて、子供たちにとってはやっぱり大変何か心躍る学校授業以外のこういうことっていうのは、本当に有意義なことです。ずっと一生なんていうかな、心に残ることで、やっぱりそれを努力していくことができるとか、いろんなことを時間の過程で習得したのも見せてあげるといことは、努力する心に繋がっていくと思いますし、今本当に子供たちはもうゲームが無いと生きていけないとか言う子がいるんですけど、だからそのそういうゲーム漬けになっているような子にもそういうところを見せて、こういうことをしてみたっていうところのきっかけづくりにもなって、大変良いことだと思いますので、ぜひ継続してまたお願いできたらと思います。

中山市長

ありがとうございます。眞井委員お願いします。

眞井委員

とても良い専門的な外部講師の方に、授業していただいて、とても良い事業だと思います。ダメなところっていうのが何も思いつかないんで。希望としては、見る感じではない、パントマイムであったりとか、演奏、あとはスポーツとかの講師の方がほとんどと思うんですけど、その中にもうちょっと自然と小松島市でも自然に、たとえば海だったりとか山だったりとか、そういう専門の講師さんにも入っていただけたらいいかなと思います。そしたらそれがまた環境問題だったりとかに繋がっていくのではないかなと思います。もうちょっとこの中のスポーツとか音楽もすごい大事なことと思うんですけど、せっかく小松島って山もあり、海もあるのに、そこに全然触れてないっていうのはちょっと勿体ないかなってところで、こういうこれでもう今は環境問題はいろいろと言われてるんで、それもすごくいいことなんではないかなと思いました。以上です。

中山市長

ありがとうございます。

福田委員

まずもってこの外部人材活用事業で予算化していただいたことに私は心から感謝をしたいと思います。本年度から伺っておりますけれども、現場の経験者の一人として、直接その本物に触れるとか、直接体験を積んでいけるということの大切さってというのは、学校現場のみならず教科書とか写真とか動画とか、たしかにそれで子供たちに機会を与えることはできるんですけども、その直接体験ほど値打ちのあるものはないかなというふうに思っております。これまでも予算化されてない中で、各学校でそれぞれに取り組んできたんです。地域の方々のボランティアも素晴らしかったわけで、それはせめてお返しっていいですか、気持ちだけかもわかりませんが、予算化されていくってことはもう本当にボランティアで来ていただっきよる方たちのも、感謝の気持ちもやっぱり表したいので、そういう意味で先ほど開口一番予算に感謝したいなというふうに申し上げました。今後も引き続きですけれども、先ほど眞井委員からも自然体験の話もありました。これも少年自然の家もちょっと老朽化をしていたりしているのであって、したくてもできない事情もありますので、その中でも今度新しく生まれた事業がさらに発展していきます。ご期待申し上げたいなと思っております。以上です。

中山市長

ありがとうございます。教育長。

小野寺教育長

私もですね。もう市長の思いに感謝でございます。これだけの予算をつけていただくと非常にありがたい。いくらネット社会が進もうと、さっきの話、リアルさと、それと大人のモデルと子供たちにそのイメージを持たせる、もうこれキャリア教育のもう一番最たるもの、もうこの部分がこの事業によって実現できている。やっぱり日本の第一線で活躍をしているゲストと出会うことで、テレビの中だったら向こうの違う社会の話だけど、リアルに会うことによって、私にも夢が持てるし現実性が出てくる。これがリアルが一番メリットであり、それが実現できる。当然予算いります。なかなか一流呼んで予算、今までの学校ではとてもじゃないけどできなかったのを実現させていただいているのは市長の熱い思いだと僕は思います。もう一つね、狙いとしてね、実は今回パントマイムと堀尾さんに入ってもらったんです。例えばいろんな場所に行ったときに、A小学校とB小学校の子供たちが出会ったときに、「あれ、パントマイム見たん。」っていう形で仲間が広がる。だからこれは学校再編に繋がっていくっていう狙いの一つでもあるんです。だから共通のゲストは、共通のキーワードになって、共通の仲間になるっていう。それと、もう一つは、地域の方々に学校に入

ってもら、今まで学校っていうのはある意味閉鎖的な。でもこれが気軽に入っただけっていうことで、開かれた学校作りに繋がっていくこともできる。本当にですね、もうこの件に関しては本当にもう感謝しかございません。実はこないだもちろっと YouTuber の方がちょっとあるところで出会って話をして、「一度子供に話をしてくださいよ。」と言ったんです。そしたら、「先生、その時には厳しい話になりますよ。」っていいます。YouTuber の方がね。やっぱり子供たちにとったら YouTuber っていうのは希望の象徴の第1番なんです。でも現実には厳しい。だからそういうリアルさっていうのを伝えていくことも、これからの教育の中では非常に大事じゃないのかなと。だから本当に予算付けをいただいたことによっです、小松島の広がりが教育に広がりが出てきているということが第一だし、逆にこれをある意味、学校教育の子供たちに結び付けていく部分を教育委員会が考えないといけないんですけど、実は一番大切なのは現場の先生方が、打ち上げ花火ではなくて、この活動をいかに繋いでいただくか。この部分、次年度は市長につけていただいているので委員会としては努力をしていきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

中山市長

はい、ありがとうございます。ただいま拝聴しますところによりますと、この事業というのは大正解だったかなと思っております。非常に今後効果が出る事業だと認識しておりますので、今年一年で終わらせるというのは非常に勿体ないことだと思います。ぜひですね、継続的に予算をつけていきたいし、ただ皆さんいろんなネットワークをお持ちだと思いますので、ぜひそのネットワークをフル活用していただいて、講師の選定をしていただきたい。今眞井委員からもありましたように、一つのジャンルね、かたよっているというか、もっともっと広がりが必要だと思っておりますので、試しやすいジャンル、例えばおっしゃったようにスポーツ、音楽とか非常に呼びやすい人がいるので、呼びやすいかもしれません。ですから、もっともっと工夫を加えてですね、いろんなジャンルに挑戦していきたいと思っております。今アンバサダーも増えておりますので、その人たちとの連携を図るのも、一つの方法だと思いますし、最終的にはやはり小松島に対する郷土愛を持っていただく。そこが大事じゃないかなって思っております。ひいてはですね、いつかは小松島市に帰っていただくような教育を皆さんにしていいただければと思います。やはり思い出があったらですね、ふるさとに対しての思いっていうのはより強くなっていくのかなと思っておりますので、そこを加味をしながらしっかりと事業を進めていきたいと思っておりますので、今後とも皆さんのご協力をいただきたいと思います。ありがとうございます。

それでは本日予定しておりました協議報告事項は全て終了いたしました。

本日は委員の皆様から活発なご意見をいただきまして、深く感謝申し上げます。いただいたご意見ご提言を十分に踏まえまして、これからの事業推進に生かしてまいりたいと考えております。今後も教育委員会とともにより良い方向性を見出し、教育施策の充実に繋げてまいりたいと思っておりますので、委員の皆様方におきましても、引き続きですね、しっかりと意見を言っていただきたい。教育長に対しても意見を言っていただきたいと思っております。もう師走に入って飛ぶように、1日1日が流れていっております。もう今日19日ですね。もう残すところ10日あまりとなりました。今日もとても寒い日になりました。雪がちらつくような寒い日になりましたので、委員の皆様におかれましてもですね、まだまだコロナの感染者も増え続けております。700人、800人というような状況の中ですね、しっかりと感染対策も今以上にさせていただいて、お身体ご自愛していただきたいと思っております。一点、もうご承知かとは思いますが、宣伝させていただきたいと思っております。この週末、24、25日にここサウンドハウスホールを核としましてですね、絵本ワールド in 小松島っていうのを開催させていただきたいと思っております。図書館も同じように30周年イベントを開催させていただきますので、お互い連携しつつ、人の流れをまずは生み出していきなと思っております。この絵本ワールドっていうのはですね、1万冊の絵本が1ヶ所に集います。そこを自由に見ていただけるようなことになっておりますし、国内の有名作家の6名の作家が来ていただくこととなります。本来であれば、9月にですね開催する予定だった、もっともっと広範囲で開催する予定でございました。kocoloまで巻き込んでですね、この一帯、公園も含めてですね、大規模開催を目指しておりましたが、残念ながら台風の影響で前回は中止となって、この24、25日の開催になってるわけですが、まだまだ感染症が増え続けているので、果たしてどうかなという不安はありますけれども、しっかりと担当課また職員が一丸となってですね、感染対策を施しながら、市民の皆さんが小松島市内だけじゃなくて、市外からもこのイベントを楽しみにされている方が多くいらっしゃると思っておりますので、このイベントで来ていただいた人たちに対して小松島市の魅力をどんどんどんどん発信していきたいと思っております。イベントを開催する意義っていうのが人に来てもらう、そしてこの小松島市、今で言えば前回の阿波踊りを開催したところ、本当に小松島市って感染対策がしっかりしているねっていうようなお言葉をいただきました。イベントを開催するというのはそういうふうなことに意義があるのかなと思っております。本市の今やってる現状をしっかりと市外の人に見ていただく。それがイベントをする成果・効果に繋がっていくのではないかなと思っております。今後もですね、人口減少社会を迎え撃つというか、人口減少に歯止めをかける意味でも、しっかりと我々小松島市

